

フランス語インテンシブ 4 シラバス

慶応義塾大学 SFC 2008 年春学期

インテンシブ4は、本格的な中級の実力を身につけて《SFCフランス語》の黒帯になるための最後の段階です。ここをしっかりと乗り越えれば、フランス語スキル各科目の履修資格が得られますし、フランス語による講義の科目を履修する準備も整ったといえます。さらに、フランス語圏に留学してもさほど苦勞しないはずで、着実にたゆまず勉強しましょう。そうすれば必ず結果がついて来ます。

インテンシブ4の目安としての到達目標は、DELF のB2資格取得、仏検準1級合格、そしてTCFで400-499点程度のスコアを得ることができる実力を身につけることです。

インテンシブ4では、コース別に2クラスを編成します。

学生諸君には、自分のフランス語学習の目的を見据え、自分の適性や学習スタイルを踏まえて、予めA・Bクラスのいずれかを選んでいただきました。それぞれ、希望したクラスに登録されているはずで、

クラス	火曜・水曜	木曜・金曜
A	両クラス合同コア授業 (文法の理解と総合的演習)	「読み書き」に重点を置くコース別授業
B		「話す・聞く」に重点を置くコース別授業

■ コア授業： A・B両クラスの履修者へ

火曜日と水曜日の授業はAクラスとBクラスの合同で、インテンシブ4のコア授業を行います。これは2つのコースの共通の幹を成す授業だと理解してください。読む・書く・聞く・話す力を総合的につけることを目指しますが、特に文法的な補強と書く能力の養成に力を入れます。

インテンシブ4まで来ると、フランス語学習も佳境に入ったと言えます。なぜなら、インテンシブ3まででフランス語の基礎的な文法事項はほぼひと通り学んだわけですが、まだプールで泳いでいる段階です。インテンシブ4のレベルで初めて大海に泳ぎ出る感覚を感じてもらえることでしょう。

火曜日と水曜日の授業は原則として互いに関係を保って進められます。水曜日の授業が先行して、具体的なテキストの世界に皆さんを誘い、翌週の火曜日に文法的なポイントをモジュール形式で学びます。水曜日の授業では様々な形態の文章に触れ、同時に書くことを通じて、フランス語で考えるとはどういうことか、そのあたりも体験できるでしょう。

1. 教科書

教材として、インテンシブ3で使用した次の文法教材を継続使用予定です。すなわち：

Grammaire Progressive du Français (Niveau intermédiaire) Nouvelle édition, CLE international. 約 3000 円強(税込)

2. 担当教員

火曜2限 山根祐佳

水曜2限 Hélène GRNAC

3. 授業スケジュール

扱う項目は次のように予定していますが、場合によって幾分の変更もありえます。

mardi	mercredi	Yamane	Grnac
4/8		Introduction	
	4/9		Explication du cours « Intensif 4 » La présentation d'un sujet choisi (1)
4/15		Verbe (1) : temps du passé (1) - passé composé / imparfait	
	4/16		La présentation d'un sujet choisi (2)
4/22		Verbe (2) : temps du passé (2) - passé simple / passé antérieur	
	4/30		Le compte-rendu d'un texte choisi (1)
	5/7		Intermezzo-1 (cours sur un thème libre, oral ou écrit).
5/13		Verbe (3) : autres temps	
	5/14		Le compte-rendu d'un texte choisi (2)
5/20		Verbe (4) : discours rapporté	
	5/21		Le commentaire critique d'un texte choisi (1)
5/27		Verbe (5) : subjonctif	
	(5/28)		(Conférence de civilisation)
6/3		Verbe (6) : hypothétique	
	6/4		Intermezzo-2 (cours sur un thème libre, oral ou écrit ou révision...)
6/10		Verbe (7) : constructions infinitives - faire, laisser, verbes de sensation	
	6/11		Le commentaire critique sur un texte choisi (2)
6/17		Verbe (8) : passif, verbe pronominal, etc.	
	6/18		Code oral / Code écrit
6/24		Nom : détermination, techniques de reprise (anaphore)	
	6/25		Le résumé d'un texte choisi (1)
7/1		Expression (1) : cause, conséquence, but	
	7/2		Intermezzo-3 (cours sur un thème libre, oral ou écrit, ou révision...)
7/8		Expression (2) : opposition, concession, comparaison	
	7/9		Le résumé d'un texte choisi (2)
7/15		Examen final	

4. 評価(インテンシブ4全体の50点/100点)
- | | |
|----------|-----------------|
| 期末テスト | 20点(Grnac/山根合同) |
| Grnacの授業 | 15点 |
| 山根の授業 | 15点 |

■ 読み書き重点コースの授業:Aクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。フランス語の文章に向き合うことによって、知的で厳密なフランス語への習熟を図るのが、読み書き重点コース(Aクラス)の本旨です。

フランス(語圏)の文化や社会に関する知見を深めつつ、複雑な構文を苦にせず、さまざまなテーマ研究の中で出会う文献・資料を正確に読み取る力、自分の思考内容を明快に記述する力、つまり、単なる会話を超えて中身の濃いディスカッションを行う際の基礎になるような堅固なフランス語力を養いましょう。

今学期のインテンシブ4の木曜日の授業では、ハンガリー出身・スイス在住のある作家が書いた簡潔無比の自伝的物語*L'Analphabète* を2週間に2~3章ずつ(6-15ページ程度)読み進めます。

そして金曜日の授業では、フランスの政治や文化を客観的に紹介する内容の文章を教材とし、木曜日の授業と合わせて、文法・語彙・表現の力を養っていきます。

1. テキスト

- KRISTOF, Agota : *L'Analphabète*, Zoé, Carouge-Genève, 2004 (4月10日の授業の折に、抜粋を教室で配布します。)
- *Civilisation progressive du français (intermédiaire)*, CLE international. (殆どの履修者は、先学期から使っているはずですが。新規参入の履修者には、授業開始早々に入手できるように計らいます。)

2. 自習教材(主に後半部を使用します。)

- 『1からはじめるフランス語作文』山田博志、F・ヴィラン共著 白水社 (殆どの履修者は、先学期から使っているはずですが。新規参入の履修者は、SFC生協で購入の上、4月11日(金)の授業のときに持参してください。)

3. 担当教員

木曜2限:堀茂樹/クレール・ジャクマン (週毎に交替)
金曜2限:山根祐佳

4. 学習のリズム

テキストの各章を基本的に次のプロセスを経て消化していきます。

- 1) 導入、テキストの全体的理解、補足説明、前章の語彙と理解度のチェック (担当:堀茂樹)
- 2) テキストの理解、文法・統辞法の説明・演習、自習教材に関する指示(担当:山根祐佳)
- 3) テキストに付随するエクササイズ、ディスカッション、書き取りテスト(担当:C・ジャクマン)
- 4) テキストの細部にわたる理解、全体の復習・まとめ、和文仏訳テスト(担当:山根祐佳)

5. 授業スケジュール(― あくまで暫定的なスケジュールです。)

週	インテンシブ4(Aクラス)進行表
1	(導入)
2	(導入) フランス人のアイデンティティ? フランス精神?①
3	<i>Début</i> と題されている章(以下、同じ) <i>De la parole à l'écriture</i> フランス人のアイデンティティ? フランス精神?②
4	<i>Début</i> <i>De la parole à l'écriture</i> フランス人のアイデンティティ? フランス精神?③
5	<i>Poèmes</i> <i>Clowneries</i> 国民国家、共有される諸価値①
6	<i>Poèmes</i> <i>Clowneries</i> 国民国家、共有される諸価値②
7	<i>Langue maternelle et langues ennemies</i> <i>La mort de Staline</i> 国民国家、共有される諸価値③
8	<i>Langue maternelle et langues ennemies</i> <i>La mort de Staline</i> 政治制度、選挙、政治文化①
9	<i>La mémoire</i> <i>Personne déplacées</i> <i>Le désert</i> 政治制度、選挙、政治文化②
10	<i>La mémoire</i> <i>Personne déplacées</i> 政治制度、選挙、政治文化③
11	<i>Le désert</i> <i>Comment devient-on écrivain ?</i> 地方、国家、地方分権化①
12	<i>L'analphabète</i> 地方、国家、地方分権化②
13	<i>L'analphabète</i> /(学期末試験)

6. 成績評価

コース別授業に対応する点数は、インテンシブ3全体の50/100点です。

平常の小テストと学期末試験の結果にもとづき、授業への参加度も加味して、担当の3教員が総合的に各履修者の成績を評価します。

■ 話す・聞く重点コースの授業:Bクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。話す・聞く重点コース(Bクラス)では、徹頭徹尾、音声言語としてのフランス語への習熟を図ります。

話題の文脈や場の状況に応じてスピーディに会話に加わり、聞き取りやすい発音と適切な表現を駆使して筋の通った意見を述べるような、自己表現能力・実践的な口語コミュニケーション能力を養っていきましょう。

1. 機材

購入すべき教科書や副教材は一切ありませんが、IC レコーダー等、録音の道具を持参することを推奨します。暗誦用テキストの発音など、授業中の「音声情報」を手元に残す必要があるからです。

2. 担当教員

木曜2限:フローランス容子・シュールドル

金曜3限:パトリス・ルロワ

3. 授業内容

毎回、どの教員が担当する授業の場合も、以下の4つのアクティビティをおこないます。

なお、授業中は基本的に、筆記用具の使用は許されません。履修者は、説明を聴いてノートを取りながら頭で理解していくというタイプの学習をするのではなく、身体的に言語運用を実践しながら音声と音声の組み立て方を身につけていくこととなります。

- ① 予め配布しておいたフランス語の文章(テキスト)を履修者一人ひとりが暗誦する。各学期中に、比較的平易なテキスト6つと、比較的難しいテキスト6つ、1週間に1つずつで計12のテキストを扱う。各テキストは単純なフレーズから成り、いくつかのキーワードを含んでいる。履修者は毎回、暗誦できるように用意して授業に臨むとともに、そのテキストについて論拠のあるコメントを準備して来ることとなる(20分余)。
- ② DVDに録音されているCMを材料とする聞き取り、言い換え(ex.現在形を過去形に転じる)、ヴァリエーション(ex.もとのCMの改変を想像し、条件法で語る)の演習(20分余)。なお、おそらく授業時間外に2人1組でCMを作ることとなり、それも評価対象となるだろう。
- ③ 口述描写の演習。毎週、4つの対象をオーラルで描写する。1学期12週間の授業で計48の対象を取り上げることとなる。この演習をとおして、さまざまな言い回しが身につく、ある程度長いフレーズを用いることにも慣れていく(20分余)。
- ④ 「ドラマトロジー」(これは造語)と称し、スタニスラフスキー・システムと呼ばれる演技理論にもとづき、寸劇的なやり取りを実践する。ここでは、言語だけでなく、身体表現も大きくものを言う。リアルな状況の中での自発的・即興的な口語コミュニケーションの演習(20分余)。

4. 成績評価

ふだんの教室活動を評価します。学期末試験は行いません。但し、学期末に近づけば近づくほど、その学期中の積み上げが評価対象となります。たとえば、学期末には、授業で扱った計12のテキストをすべて、いつでも暗誦できることが求められます。口述描写についても同様です。

■ 出席について

コース別授業に対応する点数は、インテンシブ3全体の50/100点です。

平常のテストと学期末試験の結果にもとづき、授業への参加度も加味して、担当の3教員が総合的に各履修者の成績を評価します「出席点」はありません。などというものは、成績評価において考慮しません。

しかし、1回、2回と欠席して休み癖がついてしまえば、学習の積み重ねができず、たちまち遅れをとって、結局脱落するということ、また、ただ漫然と、毎回受け身の態度で出席していても、語学は身につかないということ、予習復習が絶対的に必要だということを強調しておきます。

■ レクチャー(Conférences)

学期中に、2回の講演会を実施します。

5月28日(予定) M. Etienne BARRAL, journaliste indépendant

Cf. <http://www.barral-office.com/cooljapan/>

(演題は後日、フランス語研究室ホームページに発表します。)

6月13日

Mme Marthe VASSALLO

« Region, tradition et nation sont-elles solubles ? Un exemple: la Bretagne » (*titre provisoire*)

「地域と伝統とネーションの関係は解決可能か? — ブルターニュ地方を例として — 」(仮題)

Conférence は、インテンシブコースの一環です。

Conférence の日は、インテンシブの通常の授業は行いません。

時刻・場所については後日、メール連絡と、フランス語セクションのホームページに掲示します。

■ 気晴らし(Divertissement)

通称 Divertissement もインテンシブコースの一環で、インテンシブコース各レベルの全履修者が一堂に会する親睦の機会です。

今学期は、5月8日(木)第2限に実施する予定です。

Divertissement の日は、インテンシブの通常授業は行ないません。

■ マルチリンガル・スペース

メディア・センター2階に「マルチリンガル・スペース」(通称 MMLS)があるのを皆さんは知っていますか。その空間には、CD-ROM、CD、ビデオ、雑誌、新聞、辞書、参考書(仏検、DELF・DALF 参考書も)などフランス語の勉強に必要なものが揃っています。

また、フランス語共同研究室隣のλ309にもフランス語版 MMLS がオープンしています。先生や TA、そして SA もすぐ近くに居るので、何か質問があればいつでも尋ねることができます。フランス語の放送 TV5 も見ることができます。大いに活用されたし!

■ チャレンジ

以下のフランス語能力資格試験・能力認定テストを積極的に受けることを奨めます。
(→ 日程などの詳細はフランス語研究室HPにリンクしてあるウェブサイトへ。)

- DELF/DALF → DELF B2合格へ！
- 仏検(実用フランス語技能検定試験) → 準1級合格へ！
- TCF(フランス文部科学省認定フランス語能力テスト) → 400-499 点！

2007/04/03

慶應義塾大学SFCフランス語研究室